

平成29年度 飛騨市決算報告

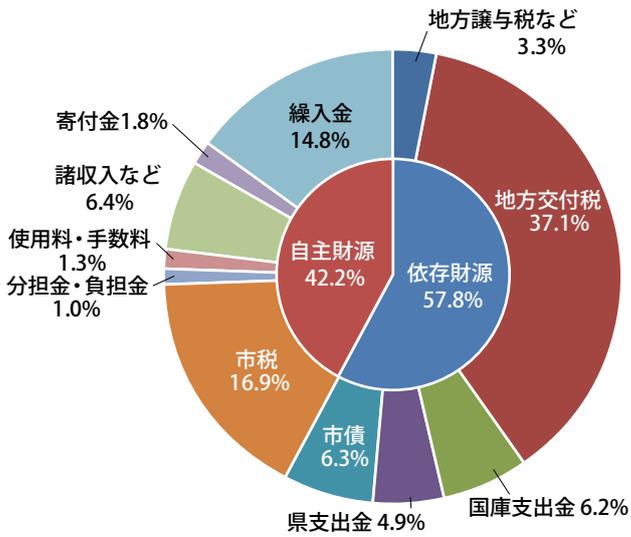
飛騨市の平成29年度決算が9月市議会において認定されました。

市民の皆さんから納められた市税や国・県からの支出金をどのくらい収入し、どのように使われているか、市の財政状況についてお知らせします。

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	実質収支
一般会計	204億8,227万円	194億7,546万円	8億8,120万円
特別会計	87億9,705万円	85億2,081万円	2億7,624万円
企業会計	23億3,105万円	25億8,213万円	△2億5,109万円

* 企業会計には「実質収支」という考え方がないため、歳入歳出差引額を記載しています

● 一般会計歳入の内訳



歳入総額 204億8,227万円
 (市民一人当たり 84万円)

歳入款名	決算額	構成比	対前年比
市税	34億5,906万円	16.9%	△ 0.1%
地方譲与税など	6億6,966万円	3.3%	5.7%
地方交付税	76億 540万円	37.1%	△ 3.3%
分担金・負担金	2億1,296万円	1.0%	0.4%
使用料・手数料	2億6,048万円	1.3%	△ 0.8%
国庫支出金	12億6,826万円	6.2%	1.7%
県支出金	10億 188万円	4.9%	△ 15.8%
諸収入など	13億2,016万円	6.4%	△ 22.2%
寄付金	3億7,005万円	1.8%	20.3%
繰入金	30億3,402万円	14.8%	228.0%
市債	12億8,034万円	6.3%	6.8%
計	204億8,227万円	100.0%	7.8%

【用語の説明】

- 市税…………… 市民税や固定資産税など市に納める税金
- 地方譲与税など…… 国税などから一定の基準により地方に配分されるお金
- 地方交付税…………… 行政サービス水準確保のため国から交付されるお金
- 国庫・県支出金…… 特定の事業に対して国や県から交付されるお金
- 諸収入など…………… 財産の売却や貸付、その他の収入
- 繰入金・繰越金…… 基金の取り崩し、前年度から繰り越したお金
- 市債…………… 公共事業等の財源として国などから借り入れたお金

* 表・グラフは表示単位で四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

■ 決算の概況

平成29年度の決算は、基金の大幅な再編を図る中で、財政調整基金(自由に使える市の貯金)から他の特定目的基金(使途を明確にした市の貯金)への積み替えを行った影響から、決算規模が表面上大きく膨らむ形となりました。

一般会計の歳入決算額は前年度比7.2%増の204億8,227万円、歳出決算額は同8.5%増の194億7,546万円となり、歳入歳出差引額は10億6,820万円、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支(決算余剰金)は、前年度比24%減の8億8,120万円となりました。

特別会計全体では、実質収支は2億7,624万円となりました。

企業会計の営業活動を示す収益的収支は、水道事業が7千284万円の黒字、病院事業が5千368万円の赤字となりました。

市債現在高(借金)は29.2億2千783万円(対前年比△23億3千300万円)、基金並現在高(貯金)は15.5億1,500万円(対前年比+2億5千347万円)となり、将来を見据えた堅実な財政運営を行っています。

また、財政の健全性を示す財政健全化判断比率は、全ての項目で国の定める健全化基準を下回っており、良好な財政運営が行われていることを示しています。

■ 一般会計歳入の状況

市税は、一部企業の設備投資や償却資産の大臣配分等などにより固定資産税が増加したものの、一部企業の業績による法人市市民税の減少により、46.2万円減の34億5,906万円となりました。

歳入の大半を占める地方交付税のうち、普通交付税については市町村合併にかかる特例措置が段階的に縮減されることから、2.5億円減の67億7,390万円。特別交付税については、昨年度には及ばないものの、当年度も豪雪による除雪経費がかかり、0.1億円減の8億3,150万円でした。

県支出金は、建設事業や災害復旧事業の完了による減少により、1.9億円減の10億1,880万円。

寄付金は、ふるさと納税に対する返戻品の充実等により、0.6億円増の3億7,005万円となりました。

繰入金は、特定目的基金への積み替えのため、財政調整基金から繰り入れたことにより、21.1億円増の30億3,402万円となりました。

市債は、合併特例事業債の増加により、0.8億円増の12億8,034万円となりました。

今後も自主財源の確保に向けた積極的な取り組みを進めるとともに、将来にわたり健全財政を維持し、「元気で、あんな、誇りの持てる ふるさと飛騨市」の実現に向けた取り組みを推進します。

■一般会計歳出の状況

▼目的別歳出

総務費は、市有施設の保全経費に充てる公共施設管理基金への積み立て金等により19億円増の41億8千2万円。

衛生費は、こどもこのころクリニク開設に係る準備経費等により、1億円増の14億9千112万円。

商工費は、古川町中心市街地観光サイン整備事業の皆減等により、14億円減の9億8千590万円。

教育費は、古川町中野公民館建替えに対する補助等により、45億円増の14億7千924万円となりました。

▼性質別歳出

維持補修費は、市道除雪委託料の減等により、0.7億円減の5億2千598万円。

積立金は、財政調整基金から使途が明確な特定目的基金への積み替えを行ったことにより、15億2千539万円増の24億9千296万円。

繰出金は、国民健康保険においてH30年度から広域処理化に備え、急激な保険料負担の増加を緩和するための財源として、通常分に加え2億円を繰り出したこと等により、3億円増の23億8千447万円。

普通建設事業費は、道路整備事業の増加等により、0.2億円増の2億2千214万円となりました。

歳出款名	決算額	構成比	対前年比
総務費	41億8,002万円	21.5%	83.7%
民生費	40億2,209万円	20.6%	△ 6.8%
衛生費	14億9,112万円	7.7%	7.1%
農林水産業費	10億9,937万円	5.6%	△ 4.0%
商工費	9億8,590万円	5.1%	△ 12.2%
土木費	23億7,546万円	12.2%	△ 3.3%
消防費	6億8,283万円	3.5%	△ 5.6%
教育費	14億7,924万円	7.6%	43.5%
公債費	29億4,437万円	15.1%	△ 0.5%
議会費・災害復旧費など	2億1,506万円	1.1%	△ 47.5%
計	194億7,546万円	100.0%	9.2%

【用語の説明】

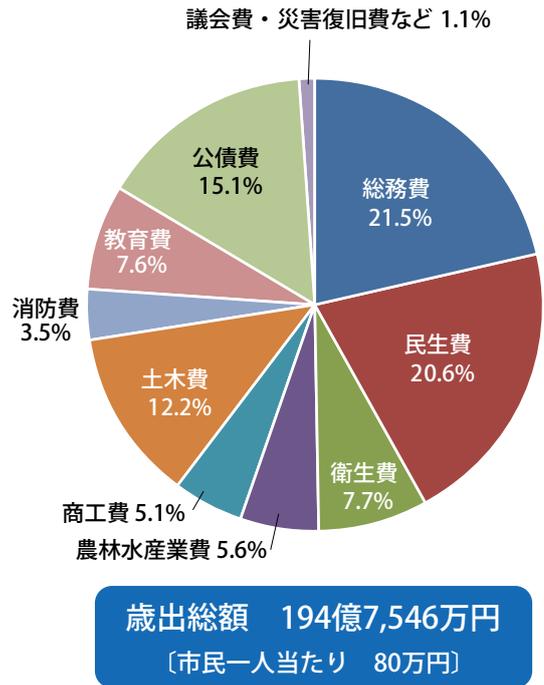
総務費……………徴税や防災、戸籍など行政運営全般に関する様々なお金
 民生費……………子どもや高齢者、障がい者などの福祉対策に使われたお金
 衛生費……………健康管理やごみ・し尿処理などに使われたお金
 農林水産業費……………農林水産業の振興に使われたお金
 商工費……………民間企業の支援や観光振興に使われたお金
 土木費……………道路や公園、市営住宅などの整備や維持管理に使われたお金
 教育費……………小中学校の運営や文化・スポーツ活動の振興に使われたお金
 公債費……………公共事業等の財源として借り入れたお金(市債)の返済

性質区分名	決算額	構成比	対前年比
人件費	24億9,686万円	12.8%	2.7%
物件費	25億5,298万円	13.1%	0.1%
維持補修費	5億2,598万円	2.7%	△ 12.0%
扶助費	18億 167万円	9.3%	0.5%
補助費等	14億4,621万円	7.4%	△ 2.0%
公債費	29億4,438万円	15.1%	△ 0.5%
積立金	24億9,296万円	12.8%	157.7%
投資・出資・貸付金	3億1,580万円	1.6%	0.0%
繰出金	23億8,447万円	12.3%	14.2%
普通建設事業費	24億2,214万円	12.4%	0.8%
災害復旧事業費	9,201万円	0.5%	△ 62.9%
計	194億7,546万円	100.0%	9.2%

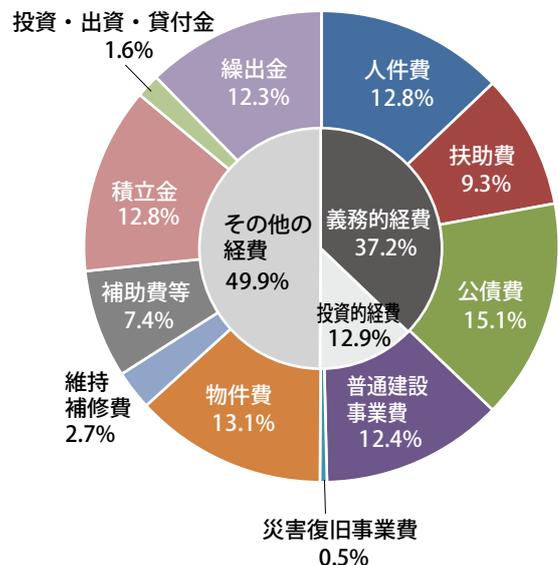
【用語の説明】

人件費……………市職員の給料・手当、議員・委員報酬など
 物件費……………臨時職員の賃金、光熱水費、各種委託料など
 維持補修費……………公共施設の修繕や道路除雪費など
 扶助費……………児童手当や生活保護、障がい者支援に対する給付など
 補助費等……………各種団体に対する補助金や負担金など
 繰出金……………特別会計の運営に対する一般会計からの支出金など
 普通建設事業費……………道路や公共施設の整備費用

●一般会計歳出(目的別)の内訳



●一般会計歳出(性質別)の内訳



● 特別会計の決算状況

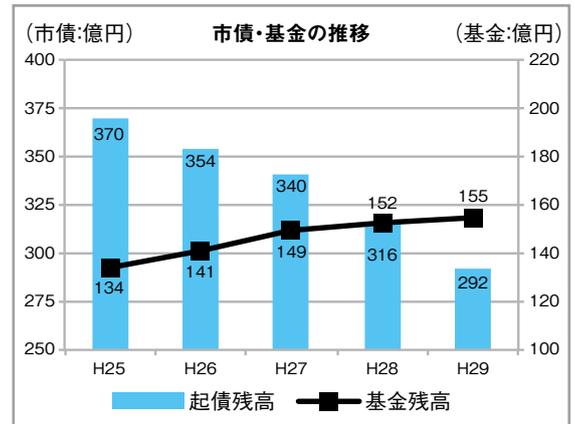
会計名	歳入決算額	対前年比	歳出決算額	対前年比	実質収支
国民健康保険特別会計	34億9,757万円	7.9%	33億5,045万円	4.6%	1億4,713万円
後期高齢者医療特別会計	3億9,095万円	5.0%	3億8,686万円	4.4%	408万円
介護保険特別会計	31億5,962万円	0.6%	30億6,274万円	0.4%	9,688万円
公共下水道事業特別会計	9億3,620万円	6.4%	9億2,975万円	8.0%	645万円
特定環境保全公共下水道事業特別会計	1億7,849万円	0.9%	1億7,641万円	0.9%	208万円
農村下水道事業特別会計	3億 634万円	△ 0.3%	3億 132万円	△ 0.3%	502万円
個別排水処理施設事業特別会計	1,464万円	△ 14.1%	1,357万円	△ 15.2%	106万円
下水道汚泥処理事業特別会計	1億5,773万円	4.2%	1億5,773万円	4.2%	0万円
駐車場事業特別会計	396万円	△ 35.2%	235万円	△ 61.3%	161万円
情報施設特別会計	1億1,617万円	△ 2.6%	1億 459万円	4.0%	1,159万円
給食費特別会計	3,539万円	0.5%	3,504万円	0.6%	35万円
計	87億9,705万円	4.1%	85億2,081万円	3.0%	2億7,624万円

● 企業会計の決算状況

会計名	歳入決算額	対前年比	歳出決算額	対前年比	歳入歳出差引
水道事業会計（収益的収支）	5億6,366万円	△ 3.1%	4億9,082万円	2.2%	7,284万円
水道事業会計（資本的収支）	4,663万円	△ 6.5%	2億3,502万円	13.2%	△1億8,839万円
国民健康保険病院事業会計（収益的収支）	16億9,501万円	1.7%	17億4,869万円	△ 0.8%	△5,368万円
国民健康保険病院事業会計（資本的収支）	2,575万円	△ 50.1%	1億 759万円	△ 3.5%	△8,185万円
計	23億3,105万円	△ 0.8%	25億8,213万円	0.8%	△2億5,109万円

● 市債・基金年度末残高の推移

区分	市債残高(H29末)	区分	基金残高(H29末)
一般会計	179億5,082万円	積立基金	149億7,931万円
特別・企業会計	112億7,700万円	運用基金	5億2,218万円
合計	292億2,783万円	合計	155億150万円



● 財政健全化判断比率の状況

財政指標名	H29年度	H28年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—%	—%	13.18%	20.00%
連結実質赤字比率	—%	—%	18.18%	30.00%
実質公債費比率	13.6%	13.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—%	—%	350.0%	—%

*表示単位で四捨五入しているため、合計、差引が一致しない場合があります

【用語の説明】

特別会計………特定の事業を行うため、一般会計とは別に設置される会計
 企業会計………地方公営企業法の適用を受け、営利的事業を行う会計
 実質収支………歳入歳出の差引額から翌年度に繰り越す一般財源を除いた額
 実質単年度収支………当年度の実質収支から前年度の実質収支を除き、基金の積み立てや取り崩し等を加減した額（実質的な収支を表す指標）
 収益的収支………企業会計における日々の営業活動に関する経費とその財源
 資本的収支………企業会計における施設・設備を整備するための経費とその財源
 市債………建設事業等の財源となる長期の借入金（借金）
 基金………特定の目的のために積み立てられた資金など（貯金）
 標準財政規模………標準的に収入される一般財源の規模
 実質赤字比率………普通会計の赤字額が標準財政規模に占める割合
 連結実質赤字比率………全会計の赤字額が標準財政規模に占める割合
 実質公債費比率………公債費(市債の返済等)が標準財政規模に占める割合
 将来負担比率………将来負担すべき負債(市債等)が標準財政規模に占める割合
 早期健全化基準………国が定める財政健全度の注意水準(イエローカード)
 財政再生基準………国が定める財政健全度の危険水準(レッドカード)

団体区分	会計区分	統計区分	財政指標の対象範囲
飛騨市	一般会計	普通会計	実質赤字比率
	うち公営企業会計	公営事業	実質公債費比率
古川国府給食センター利用組合			将来負担比率
飛騨市土地開発公社など			

●主要施策の実績

平成29年度に実施した主な施策とその決算額について、歳出目的別に報告します。

■総務費

- ▽防災備蓄品整備事業：1千631万円
- ▽公共交通運営事業：1億3千258万円
- ▽庁舎改修等事業：1千421万円
- ▽飛騨市ケーブルテレビインターネット通信速度向上対策事業：576万円
- ▽薬草ビレッジ構想推進プロジェクト事業：162万円
- ▽ふるさと納税推進事業：4億9千889万円
- ▽魅力ある地元高校づくり事業：171万円
- ▽移住・空家流動化対策事業：2千831万円
- ▽宇宙物理学研究紹介施設整備事業：1億6千685万円
- ▽ロスト・ライン・パーク構想推進事業：1億1千33万円
- ▽飛騨みんなの博覧会実施事業：425万円
- ▽台湾交流事業：418万円



▲レールマウンテンバイクガッタンゴ

■民生費

- ▽まめとく健康ポイント事業：156万円
- ▽児童クラブ・保育園エアコン整備事業：1千33万円
- ▽病児・病後児、体調不良児保育事業：1千382万円
- ▽障がい児通所支援事業：3千725万円
- ▽母子保健事業：3千197万円
- ▽児童精神科診療所開設準備事業：5千803万円
- ▽ごみ減量化の推進事業：859万円



▲赤ちゃんふれあい体験

■農林水産業費

- ▽水田フル活用推進事業：2千351万円
- ▽担い手応援事業：5336万円
- ▽強い畜産構造改革支援対策事業：2千626万円
- ▽飛騨牛生産基盤強化推進事業：467万円
- ▽多様な森林活用推進事業：895万円

- ▽野生鳥獣による被害対策事業：1千6万円
- ▽林道整備事業：1億2千378万円

■商工費

- ▽ネットショップ運営人材育成事業：162万円
- ▽外国人技能実習生雇用支援事業：13万円
- ▽希少伝統産業後継者の独立創業支援事業：472万円
- ▽「古川祭ユネスコ無形文化遺産登録」交流促進事業：189万円
- ▽飛騨古川まつり会館映像リニューアル事業：3千663万円
- ▽飛騨古川まつり会館施設改修事業：777万円
- ▽ロケツアーリズム推進事業：375万円
- ▽池ヶ原湿原遊歩道整備事業：2千942万円



▲池ヶ原湿原

■土木費

- ▽市道除雪事業：4億7千247万円
- ▽交通安全施設整備事業：977万円
- ▽道路維持補修事業：5千252万円

- ▽道路新設改良事業：3億5千29万円
- ▽橋梁維持補修事業：1億5千418万円
- ▽古川祭屋台曳行支障電線等移設事業：420万円
- ▽百足城跡公園整備事業：1千56万円
- ▽都市再生整備計画事業（市道等之町線無電柱化整備事業ほか）：7千987万円
- ▽住宅新築・購入支援助成事業：2千500万円



▲消防車両

■消防費

- ▽消防車両更新等事業：4千771万円
- ▽小型ポンプ積載車・小型動力ボンプ更新事業：2千21万円

■教育費

- ▽育英基金給付型奨学金制度の創設事業：1億11万円
- ▽「ふるさと飛騨市」改訂版作成事業：137万円
- ▽部活動各種大会補助金事業：245万円

- ▽公民館講座等開催事業：176万円
- ▽スポーツ推進事業：833万円
- ▽地域歴史資源活用事業：2千65万円

■災害復旧費

- ▽公共土木施設災害復旧費：7千387万円
- ▽農林水産業施設災害復旧費：1千583万円

●監査意見総括

本市の財政は、健全傾向は維持されているものの今後の人口減少に伴う地方交付税の見直しなど依存財源が抑制される傾向にあることが想定される。自主財源確保に向け積極的に取り組み、健全かつ公正な財政運営を強く望むものである。



意見書を都竹市長へ提出する福田幸博代表監査委員と澤史朗議会議長